

高齢者医療センター通信

春号



Vol.1 (2024年4月発行)

発行：学校法人川崎学園

川崎医科大学高齢者医療センター
患者診療支援センター

病院長挨拶



人が長生きできる時代がやってきました。長寿の実現は人々が長年にわたり望んできたことであり、慶賀すべき事柄です。一方で、加齢に伴い白髪になるように、様々な臓器に加齢変化が生じることは避けられません。脳や筋肉（骨格筋）の機能も低下し、認知障害や体力低下（フレイル）の原因となります。高齢者は複数の疾患を持つことも珍しくありません。そこで高齢者医療では、全身を診る「総合診療」が必要になります。若・中年期の急性期疾患を中心とした臓器別医療とは全く異なるわけです。超高齢化社会を迎え、医療のあり方、医療を提供する場、医療者も柔軟に変化する必要があります。高齢者医療は、我が国のもうひとつの最先端医療といえるでしょう。ご高齢になっても、可能な限り住み慣れた自宅で、自立して健やかな生活がおくれるように支えてゆきたく願っています。高齢者医療センターは高齢者総合医療を提供し、医療人材を育成してゆきます。地域に住まう高齢者の皆様を支え、身近な医療機関として地域社会に貢献して行きたいと存じます。

フレイルセンターより

フレイルセンターは身体（足腰が弱くなる）、精神（認知機能が弱くなり、気持ちが落ち込む）、社会（閉じこもり）が弱くなることを防ぐ場所として開設されました。主に運動する場所ですが、様々な専門職と連携して利用者さんの生活を支援します。

個人の要望に合わせたプログラムや集団でおこなうプログラムなど（筋力を鍛える、認知機能を鍛えるなど）をご用意しています。自宅でも活かせるような内容になっています。

「運動」と聞くと「きつい」と連想されることが多いですが、自分のペースで行えるように配慮していますのでご安心ください。

とりあえず見学、体験でも大丈夫です！

ご利用頂くには受診が必要なケースがあるため、詳細は患者診療支援センター地域医療連携室（086-201-5280）までお問い合わせ下さい。

リハビリセンターより

当院のリハビリテーションセンターには、理学療法士が7名、作業療法士4名、言語聴覚士1名が在籍しています。私たち療法士は、高齢者の方々が直面する特有の身体的な問題や認知機能の低下、それに伴う日常生活上の制限など幅広い諸問題に焦点を当てています。例えば、転倒予防や筋力低下の予防といった身体的課題に対処するプログラムや、認知症の予防や認知機能の向上に向けたトレーニングなど、様々なアプローチで患者様の健康をサポートしています。また、日常生活での活動継続や社会参加の促進など、生活の質を向上させる取り組みも行っています。個々の患者のニーズに合わせて、丁寧かつ総合的なリハビリテーションプログラムを提供し、安心して住み慣れた地域に帰れるように支援しています。

看護部より

当院は、住み慣れた地域で暮らす高齢者の皆さまを医療福祉の専門家が治し支える医療の提供を目的とし2023年9月に開院しました。様々な心身機能の低下が生じ、複数の疾患を併せ持つ「老年症候群」という状態について、個々の患者のCGA評価（ADL・手段的ADL・認知機能・老年期うつ・意欲指標・栄養状態）を行い、どのような医療・ケアが有効かチームで検討し実践しています。更に、心と体を整えるだけでなく、高齢独居であっても、認知症があっても住み慣れた地域で暮らすことができるよう、地域の先生方や多職種の方々にご相談や連携をお願いし退院後の生活環境を整えてまいります。住み慣れた地域、住まいとなる場所へお帰しするために「食べる機能を支える」「転びにくい身体をつくる」治し支える看護を丁寧に実践しています。

栄養部より

入院中も退院後も継続可能な「食」の支援を行います。入院中の食事は、家庭でも参考にいただけるメニューや季節の行事に合わせた献立を提供し、退院後も自立した生活を実現できる体力回復を目指して栄養サポートをしています。

安心して召し上がれるようアレルギーや病状による嗜好の変化に合わせた個別対応も行います。

食事の形態や食べ方に配慮が必要な場合は医師や看護師、言語聴覚士と連携し、最適な栄養補給方法を提案します。

退院の際の栄養相談では、地域でできるだけ長く療養生活を続けられるように、患者さんの病状やご家族の意向とサポート体制に合わせた具体的な提案を行ない、かかりつけ医やケアマネジャー宛に栄養情報提供書の作成も行います。

今後は外来の栄養相談でも、退院後の食生活の不安をサポートできる“顔の見える”管理栄養士として頼っていただけるよう努めます。

当院の強み

当院は、全国初の大学病院における高齢者医療センターとして、診療・教育を進めていく施設です。

入院診療における強みは、亜急性期～慢性期患者さまを在宅復帰に向け、病気のみならず身体面・精神面・社会面の回復を、老年医学的な考え方に基づいて集中的に行うことにあります。また、併設の訪問看護・介護・リハビリのスタッフとも協力し、在宅復帰後も切れ目のない診療を継続できることも当院の強みと考えます。外来では、これまで相談する先を迷うような老年症候群、今後さらに増加するもの忘れに対して老年医学、認知症学の専門医が診療を行うことを特色としてします。また運動を習慣づけてもらうための施設として「フレイルセンター」を併設し、その利用を推進できることも特徴です。

教育においては、当院で研修することにより老年医学的手法を習得した医師、看護師、理学療法士、栄養士、薬剤師といった職種を、他の施設やクリニックに輩出することにより、県全体の高齢者医療のレベルアップを図りたいと考えています。

我々の取り組みは本誌をはじめ、当院でのイベントや新聞・メディア・学会発表などを通じて紹介していきます。



学校法人川崎学園 川崎医科大学高齢者医療センター
患者診療支援センター 地域医療連携室
〒700-0821 岡山市北区中山下二丁目1番80号
TEL **086-201-5280** (患者診療支援センター直通)
FAX 086-225-2051

受付時間

平日 8:30~11:30

13:30~16:00

土曜日 8:30~11:30